都市再生整備計画（第3回変更）

のぼりべつひがし
登別東地区

ほっかいどう　のぼりべつ
北海道　登別市

令和5年3月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォーカブル推進事業	□

・様式は、A4印刷とすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式（1）-②

都道府県名	北海道	市町村名	登別市（のぼりべつし）	地区名	登別東地区（のぼりべつあがしち く）	面積	48 ha

計画期間	令和 3 年度 ～ 令和 5 年度	交付期間	令和 3 年度 ～ 令和 5 年度

目標

・登別市観光交流センターを中核とした賑わいのあるまちづくり
・登別駅周辺の一体的整備と地域創造によるまちの活性化

目標設定の根拠

都市全体の再編方針（都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の考え方を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針） ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

・本市の人口は昭和58年にピークを迎えたものの、その後現在に至るまで減少が続き、今後は高齢者人口自体も減少する本格的な人口減少段階へ移行するものと予測されていることから、市全域において人口密度が低下するとともに、地域間の人口密度に偏りが生じることで、行政サービスの非効率化や地域コミュニティの衰退につながる恐れがあるなど、今後様々な課題に直面することが予想される。
・こうしたことから、都市機能や居住の誘導・集約、公共交通の充実により持続可能なコンパクトシティを実現するため、立地適正化計画を策定し、多世代が安心して暮らせるよう、主要な鉄道駅や幹線道路を中心に都市拠点を設定し、それらが公共交通により連携した都市（多核連携都市）を目指すものである。
・このうち、本計画に位置付ける登別東地区（登別地区）は、登別観光の玄関口として重要な役割を担っていることから、登別市観光交流センターをはじめ、道路等の整備を複合的に実施し、観光客や地区住民等、人々が行き交う賑わいあるまちづくりに取り組むものである。
・また、本市では、「登別市公共施設等総合管理計画」などに基づき、老朽化した公共施設等については移転・統廃合を図り、新たに施設を整備する場合は原則として機能の複合化・集約化を図るとともに、施設総量の削減に取り組むこととしており、公共施設等の移転や統廃合に伴う跡地や公的不動産（PRE）などで都市機能誘導区域に位置するものについては、都市機能の立地誘導や民間事業者の誘致など、積極的に活用を検討することとしている。
・なお、本計画の基幹事業に位置付ける登別市観光交流センターの整備にあたっても、同地区に立地する公共施設を集約化し、施設総量の削減に取り組んでいるところである。

まちづくりの経緯及び現況

・本市は、北海道南西部、支笏洞爺国立公園の中央に位置し、温泉観光地として観光関連産業を基幹に発展を続けるとともに、工業都市室蘭市の同一生活圏として商工業においても発展してきた。
・古くから温泉街と海岸沿いに大きく4つの地区（登別温泉地区、登別地区、幌別地区、鷲別地区）で形成され、それぞれの地区が連坦性を持ち拡大してきたが、少子高齢化等において人口減少が進む中にあって、都市機能の拡散による都市整備の効率性や市民生活の利便性の低下を招くことがないよう、将来にわたって、合理的でバランスの取れた都市施設の配置を図るなど、まとまりを持たせたまちをつくることが求められる。
・このため、それぞれの地区が持つ文化や景観などの特性を生かしながら、地区ごとにコンパクトで集約的なまちづくりを進めるとともに、分散している地区の連携を強化するなど、暮らしやすい快適なまちづくりを進めることとしている。
・登別東地区は、市東部、白老町と隣接し、古くから建築用資材として利用されてきた「登別石」と呼ばれる登別軟石の切り出し・積み込み拠点として発展を遂げ、また、年間約400万人もの観光客が訪れる登別観光の玄関口に立地することから、古くは登別温泉鉄道の発着地区であったことなど、かねてより全国的に有名な登別温泉等との交通の要衝として重要な役割を担ってきた。
・しかしながら、モータリゼーションの進展による歩行者の減少に加え、人口減少や少子高齢化による後継者不足に起因する空き店舗等の未利用地が点在するなど、市街地としての活力が失われつつあるほか、公共施設が地区内に点在し、これらは老朽化が著しく、耐震性の不足、バリアフリー未対応といった状況にある。
・本市では、現在、登別駅へのエレベーターの設置や登別駅前の整備に向け、関係機関と協議・関係事務を進めているところであり、さらにJCHO登別病院の開院や民族共生象徴空間ウポポイの開設もあって、これらの連携による相乗効果により本地区を含む広域的な地域活性化が期待できることから、登別駅からの徒歩圏内（半径1km）を本計画区域として位置づけ、行政サービス機能やコミュニティ機能を集約しつつ、観光等の情報発信機能を充実させるとともに、観光客と地域住民双方の利便性・満足度の向上を図るため、本地区にふさわしい登別市観光交流センターの整備や登別駅前広場の整備等を複合的に進め、まちの賑わい創出を図るものである。

課題

・登別駅前周辺は、年間約400万人が訪れる登別温泉の玄関口ではあるものの、空き店舗等の未利用地が散在し、賑わいに欠けている。
・地区のコミュニティを支える公民館等の公共施設の老朽化が著しく、さらに耐震性にも劣る。
・インバウンドの増加により、登別駅利用者が増加しているにもかかわらず、駅前広場が狭隘であり歩行者と車両が輻輳し交通に支障をきたしている。
・また、FIT（海外個人旅行）等への対応として、登別駅構内において観光案内を行っているが、その機能は観光客数に対し十分とは言えない状況にある。

将来ビジョン（中長期）

・総合計画第3期基本計画では、「調和の中でふるさとを演出するまち」として、「暮らしやすい快適なまちをつくる」「良好な住環境と都市機能が調和したまちをつくる」「道路交通網の整ったまちをつくる」を目標に掲げている。
・都市計画マスタープランでは、当地区のまちづくり方針のひとつに、「観光の玄関口にふさわしいまち」にするため、登別観光の玄関口としての魅力を高めるための整備を進めることとしている。
・当地区の整備にあたっては、住民意見の反映に努めながら、これらの計画に沿って、活力に満ちた魅力ある産業づくりとともに、道路等の整備を複合的に行い、人々が行き交う活気あるまちづくりを進める。

都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

・都市機能誘導区域の設定にあたっては、商業施設の立地や日常生活に必要な都市機能が集積するエリアを含めることなどを条件としており、登別東地区（登別地区）では、登別駅前周辺を中心として都市機能の誘導を図ることとしている。
・同地区は、登別観光の玄関口であり、市域を越えた交流地点としての役割を担うことから、これを踏まえ、地域内交流をはじめ、その拠点となる施設整備を進めるとともに、道路や公園内歩道等の整備を複合的に行うほか、登別駅周辺において、創業支援や商店街活性化支援を併せて行い、地域の賑わい創出を図る。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

指　標	単　位	定　義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
登別市観光交流センター（地域交流センター）利用者数	人／年	公共施設（コミュニティ機能）の利用者数	公共施設の集約・複合化を図りつつ、新たな施設を整備することにより、利用者数の増加を目指す。	17,297人	R1	18,500人	R5
歩行者通行量	人／日	登別駅周辺の歩行者通行量	当地区の一体的整備と地域創造支援事業の実施により、歩行者通行量の増加を目指す。	745人	H29	790人	R5

都市再生整備計画の整備方針等

様式（1）-③

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
【登別市観光交流センターを中核とした賑わいのあるまちづくり】 ・登別市観光交流センターの整備にあたり、老朽化や耐震安全性の不足、バリアフリー未対応等の課題を抱える当地区の既存公共施設を集約し、地域住民等施設利用者の安全安心の確保と利便性の向上を図るとともに、人口減少を見据えたコンパクトなまちづくりを推進する。 ・登別市観光交流センターには、当地区が持つ特性を生かし、観光客等に対する情報発信機能を設けることのほか、地域交流の場として、地区住民等が集い、楽しむことができるよう、サークル等の活動スペースはもとより、フリースペースやキッズコーナー等を備えることに加え、施設利用者が利用可能なWi－Fiを整備するなど、その内容を充実させ、利用者の利便性や満足度の向上を図る。 ・このほか、登別駅前には路線バスの停留所が設置されているものの、都市間高速バスは同駅からやや距離のある国道36号からのアクセスとなり、利便性が十分とは言えない状況にあることから、施設駐車場について交通結節点としての活用を図るため、バス事業者と協議を重ね、都市間高速バスの乗り入れが可能となるよう進めている。 ・これらを通じて、多くの人々が行き交う、賑わいあるまちづくりを進める。 ※登別市立地適正化計画において、登別駅前周辺を中心として都市機能を誘導することを掲げている。	・道路：市道石山通り ・地域生活基盤施設：案内サイン ・高次都市施設：登別市観光交流センター ・地域創造支援事業：登別市観光交流センターWi－Fi、景勝地・イベント風景等ジオラマ ・関連事業：登別港町（登別市観光交流センター整備事業、登別駅前広場整備事業）、登別東町（地域医療機能推進機構JCHO登別病院整備事業）
【登別駅周辺の一体的整備と地域創造によるまちの活性化】 ・登別観光の強みを生かし、登別駅周辺において、市道石山通りや登別ビーチパーク園路、案内サイン、登別市観光交流センターの整備といった基幹事業を一体的に進める。 ・登別市観光交流センターでは、観光インフォメーションにおいて、登別のまちの魅力をはじめ、飲食店やホテル・旅館、体験メニューなどの情報を発信するほか、手荷物預かり等を導入することにより、施設利用者を登別駅周辺の飲食店等に誘導し、地元商店会等の協力も得ながら賑わい創出を図る。 ・これらに加え、創業支援や商店街活性化支援などの取組を併せて進めることにより、まちの活性化を図る。 ※登別市立地適正化計画において、登別駅前周辺を中心として都市機能を誘導することを掲げている。	・道路：市道石山通り ・公園：登別ビーチパーク園路 ・地域生活基盤施設：案内サイン ・高次都市施設：登別市観光交流センター ・地域創造支援事業：登別東町等（事業所開設費補助金、空き店舗活用事業補助金、商店街活性化支援事業補助金、店舗リフォーム補助金）、登別市観光交流センターWi－Fi、景勝地・イベント風景等ジオラマ ・関連事業：登別港町（登別市観光交流センター整備事業、登別駅前広場整備事業）、登別東町（地域医療機能推進機構JCHO登別病院整備事業）

その他

【まちづくりの住民参加】
・登別東地区に関する各種事業の実施にあたっては、地区住民等との意見交換により合意形成を図っている。
・特に本整備計画の基幹となる登別市観光交流センターの整備にあたっては、登別商工会議所や登別国際観光コンベンション協会、登別温泉旅館組合のほか、地元商店会や町内会、まちづくり団体などで構成する登別地区観光まちづくり協議会を中心に複数回にわたり意見交換、協議を重ね、市はここで得られた意見等を事業に反映するよう努めている。
・また、集約化の対象となる公共施設を現に利用している団体等に対しては、個別にヒアリングを行い、主にコミュニティ活動を行うにあたっての要望を聴取するとともに、将来を見据え、当該団体の活動を生かした中で、地区住民と観光客との交流が実現できるよう意見交換を行うなど、施設利用者・観光客双方の利便性や満足度の向上、地域の賑わいの創出につながるよう、地区との協働により事業推進を図っている。

【アイヌ文化の発信】
・民族共生象徴空間ウポポイは、アイヌ文化の復興等に関するナショナルセンターとして、アイヌの歴史・文化の理解促進や将来に向けてアイヌ文化を継承し、新たなアイヌ文化の創造発展につなげるための拠点として、白老町のポロト湖畔を中心に整備された。
・白老町に隣接する本市では、これを契機として、国内からの来訪者だけでなく、外国人観光客の集客が期待できることから、多くの観光客が集積するJR登別駅周辺において、アイヌ文化に対する興味・関心を高め、民族共生象徴空間ウポポイへの訪問意欲を喚起するため、その案内機能を充実させ、拠点施設への誘客や拠点施設からの送客を図り、登別・白老地域の周遊拠点としての役割を担うこととしている。

目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項（都市構造再編集中支援事業）

様式（1）-④-1

交付対象事業費	391	交付限度額	188.5	国費率	0.481

（金額の単位は百万円）

基幹事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	費用便益比 B／C
道路		石山通り	登別市	直	L=170m	R4	R5	R4	R5	58	58	58		58	－
公園		登別ビーチパーク園路	登別市	直	L=100m	R5	R5	R5	R5	7	7	7		7	－
古都保存・緑地保全等事業															
河川															
下水道															
駐車場有効利用システム															
地域生活基盤施設	情報板	案内サイン	登別市	直	7か所	R4	R5	R4	R5	7	7	7		7	－
高質空間形成施設	緑化施設等														
高質空間形成施設	歩行支援施設														
高次都市施設	地域交流センター	登別市観光交流センター	登別市	直	1,439㎡（延床）	R1	R5	R3	R5	309	309	309		309	－
	観光交流センター														
	テレワーク拠点施設														
	子育て世代活動支援センター														
	複合交通センター														
誘導施設	医療施設														
	社会福祉施設														
	教育文化施設														
	子育て支援施設														
既存建造物活用事業															
土地区画整理事業															
市街地再開発事業															
住宅街区整備事業															
バリアフリー環境整備事業															
優良建築物等整備事業															
住宅市街地総合整備事業															
街なみ環境整備事業															
住宅地区改良事業等															
都心共同住宅供給事業															
公営住宅等整備															
都市再生住宅等整備															
防災街区整備事業															
合計										381	381	381	0	381	― …A

統合したB／Cを記入してください

提案事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
地域創造支援事業	事業所開設費補助金	登別東町等	登別市	直	2件	H27	－	R3	R5	6	3	3		3
	空き店舗活用事業補助金	登別東町等	登別市	直	2～4件	H23	－	R3	R5	5	2	2		2
	商店街活性化支援事業補助金	登別東町等	登別市	直	1件	H25	－	R3	R5	4	1	1		1
	店舗リフォーム補助金	登別東町等	登別市	直	2～4件	H27	－	R3	R5	2	1	1		1
	登別市観光交流センターWi-Fi	登別港町	登別市	直	1式	R4	R4	R4	R4	1	1	1		1
	景勝地・イベント風景等ジオラマ	登別港町	登別市	直	1式	R4	R4	R4	R4	2	2	2		2
事業活用調査														
まちづくり活動推進事業														
合計										20	10	10	0	10 …B
													合計(A+B)	391

（参考）都市構造再編集中支援事業関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	（いずれかに〇）直轄	補助	地方単独	民間単独	事業期間 開始年度	事業期間 終了年度	全体事業費
合計											0

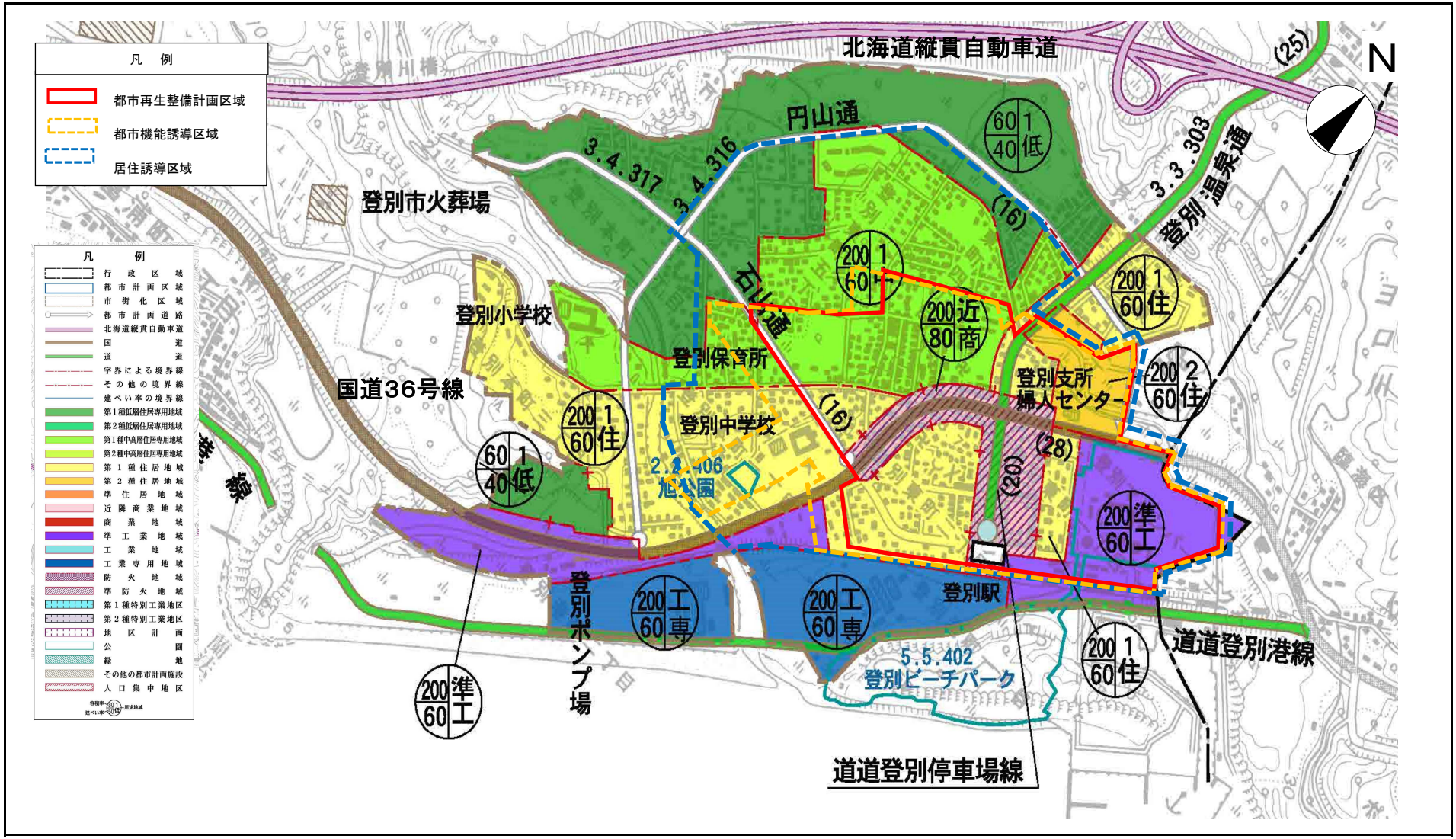
（参考）関連事業

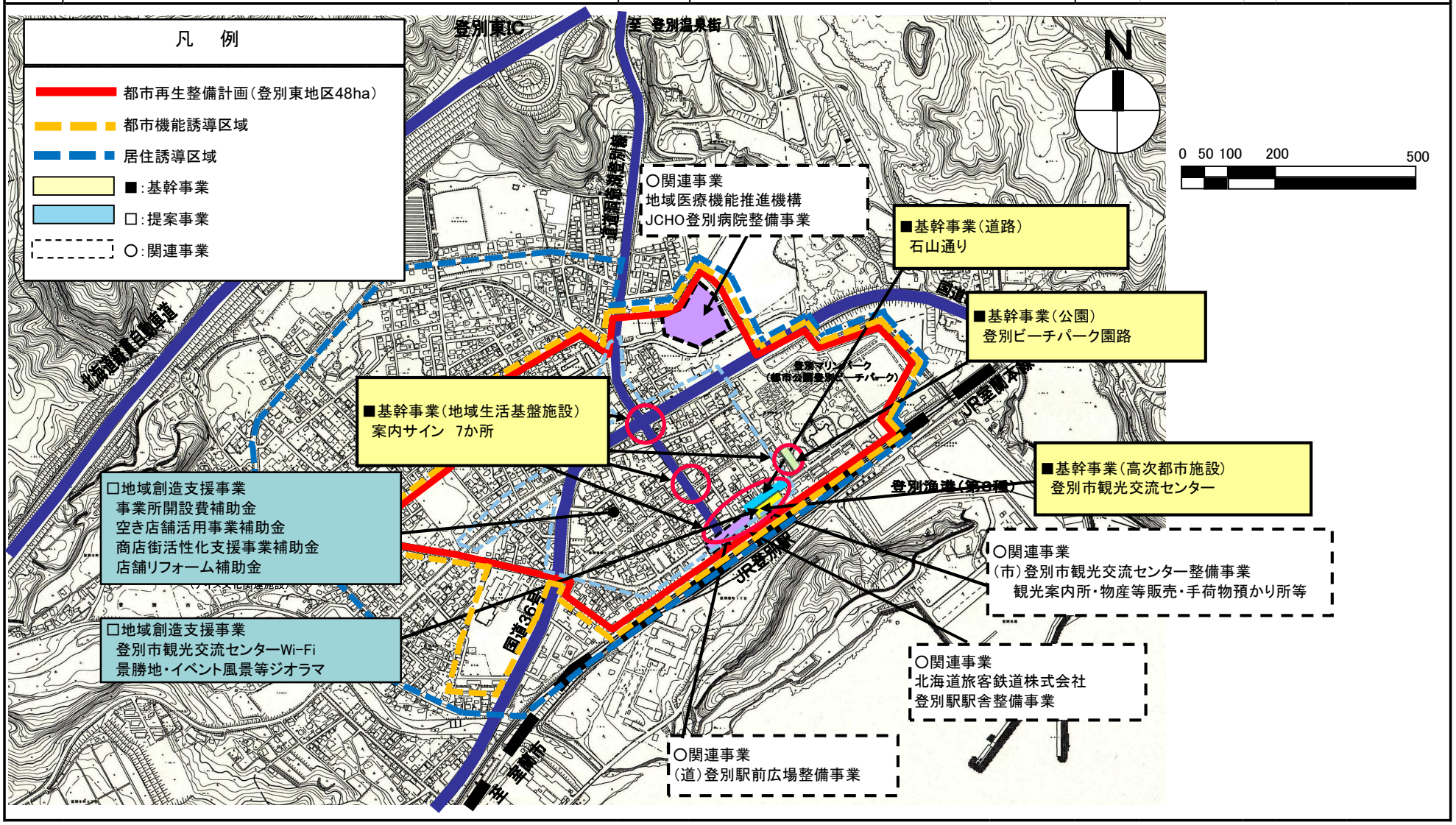
事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	（いずれかに〇）直轄	補助	地方単独	民間	事業期間 開始年度	事業期間 終了年度	全体事業費
登別市観光交流センター整備事業	登別港町	登別市	内閣府	1,439㎡（延床）		〇	〇		R1	R5	595
登別駅前広場整備事業	登別港町	北海道	国土交通省	3,500㎡		〇			R3	R7	－
地域医療機能推進機構JCHO登別病院整備事業	登別東町	独立行政法人	厚生労働省	7,440㎡		〇		〇	H30	R2	－
登別駅駅舎整備事業	登別港町	北海道旅客鉄道株式会社	国土交通省	－				〇	R3	R8	－
合計											595

都市再生整備計画の区域

様式（1）-⑥

登別東地区（北海道登別市）	面積	48 ha	区域	登別市登別東町1丁目～5丁目及び登別港町1丁目の一部



登別東地区（北海道登別市） 整備方針概要図（都市構造再編集中支援事業）

目標	・登別市観光交流センターを中核とした賑わいのあるまちづくり ・登別駅周辺の一体的整備と地域創造によるまちの活性化	代表的な指標	登別市観光交流センター（地域交流センター）利用者数	（人/年）	17,297	（令和元年度）	→	18,500	（令和5年度）
			歩行者通行量	（人/日 ）	745	（平成29年度）	→	790	（令和5年度）